



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2010年10月現在、川崎2、横浜5、県域10 計17名で活動中!!

～ '10 神通研集会報告③ ～

◎手話冊子「金沢区生活情報マップ」発行報告

- ・地域の福祉保健を推進する事業に補助が出る制度があることを知った。
- ・外見で判断することが難しい聴覚障害者に対する理解を一般社会に広める必要がある。
- ・視覚に訴える手話冊子「金沢区生活情報マップ」を地域の聴協の協力を得ながらサークルとして発行することにした。
- ・掲載内容、レイアウト、写真撮影、製本、全てサークルの手作り。
- ・初年度300部発行
- ・社協事務局会議、小中学校校長会に出席し説明協力依頼。小中学校、地区センター、町内会館、病院、郵便局、スーパー、ケアプラザ90施設に設置。
- ・町内、職場など身近なところから理解を広めるための取り組みを行っていく。
- ・区社協、区聴協等の関連団体との連携を深め、協働（共同）事業として活動を継続、強化していく。

～ 定例会 9/20 (月・祝) ～

11月に茨城県で開催される関東通研集会・分科会「手話サークル」の内容について話し合いました。関東のサークルのようすと「災害の取り組み」についての情報交換を行う予定です。

災害時に聴こえないこと、または手話ができることを見てわかる方法として、バンドナ等が普及し始めていますが、その色やデザインはまちまちです。誰にでもすぐにわかるような全国的に統一されたものにするのであれば早急な対応が望まれます。

【次回定例会】'10/10/16 (土)

10:00~12:00

かながわ県民センター 12F ボランティアコーナー

～サークル研究班メンバーのささやき～

今年初めて姉妹3人で旅行することができました。ようやく子供から手が離れてきたかな？ってところですよ。

3人とも介護や病院関係に勤めているので、その手の話題でもりあがったり、夜は遅くまで昔話に花が咲き大笑い!

私の知らない記憶が飛び出したり・・・

それにしても旅館を予約する時に電車もついでに指定席などとしたけど、行き先は箱根。”な～んだ、普通に東海道でもいいじゃん”と神奈川に住む私は思ったけど、遠くから来る妹を思えば仕方ないか～と・・・これで箱根はいつでも行ける身近な所になりました。

しゅんしゅんママ